

今週のビルマのニュース
2009年4月17日【0915号】

今週の主なニュース：NLDが特別会議を計画、ほか

・アウンサンスーチー氏が書記長を務める政党、国民民主連盟（NLD）が今月末に特別会議を開催する。各支部や青年部・女性部の代表らがラングーンの党本部に集まり、2008年憲法や2010年総選挙、制裁などについて話し合う予定（16日付イラワディ誌）。

・サイクロン「ビジリ」が勢力を増しながらベンガル湾北部を北東に進んでいる。大雨と高潮によりビルマ西部とバングラデシュ南西部で大被害が出る危険がある（16日付AccuWeather.com）。

その他：中国がASEAN投資協力基金を設立、ほか

・米国議会上院の女性議員14人が9日、国連事務総長に書簡を出し、軍政が2010年に予定している総選挙の中止と、アウンサンスーチー氏ら政治囚の釈放を軍政に求めるよう呼びかけた。これに対し事務総長の報道官は15日に声明で、「スーチー氏の拘束についての懸念を共有する」などと述べた。

・中国外務省は12日、楊外相が北京でASEAN各国の大使らと会談し、今後3～5年で総額150億ドル（約1兆5000億円）を融資すると伝えた。インフラ整備やエネルギー開発を進めるため100億ドル規模の「中国・ASEAN投資協力基金」を設立することも決めた。楊外相はカンボジア、ラオス、ビルマに対して2億7000万元（約40億円）の特別援助を実施する方針も伝えた（13日付日経ネット）。

・インドネシア・バリ島で14・15日に人身取引問題等に関するバリ・プロセス会議が開かれた。ロヒンギャ難民問題はビルマ軍政への配慮から公式な議題にならず、ビルマ軍政代表が「ロヒンギャはビルマ国民でもなければ迫害されてもいない」と主張し、明確な解決策は出なかった。しかしタイはロヒンギャ難民の海上放置はしないと約束し、ビルマ・タイ・インドネシア・バングラデシュがロヒンギャ問題解決のための作業部会を作り、今後も協議を続けることになった（16日付イラワディ誌ほか）。

ビルマへの政府開発援助（ODA）約束状況など

日経速報ニュースによれば、日本政府はビルマ軍政に対する経済援助の凍結を2011年にも解除し、新首都ネピドーと最大都市ヤンゴン間の鉄道を電化する技術と資金数億円を供与する。再開は「民主化への前進がみられる」ためという。12日にタイで麻生首相が軍政のテインセイン首相に伝える予定だった

（10日付日経速報）。外務省からの発表はない。日本は1989年に新規円借款を凍結し、無償資金協力についても限定的な実施を行っているが、OECD諸国ではビルマへの最大の援助供与国（最新データ＝2006年度分）。

イベントなど

・在日ビルマ人共同行動実行委員会アクションー国連事務総長に対し、一刻も早くビルマを訪問し、スーチーさんを含むすべての政治囚の釈放と対話の促進を軍政に働きかけるよう要請するアピール行動（国連大学前、13～17日 15～16時）

・ビルマの政治囚の釈放を求める署名活動 ビルマ政治囚支援協会、国民民主連盟（解放地域）日本支部ほか（新宿駅西口、18日13時～）

・アムネスティ・インターナショナル日本 セミナー「東南アジアの難民問題ーロヒンギャ」（JICA地球ひろば会議室302、19日15時半～）

・ピースウィンズ・ジャパン活動報告会「サイクロンから1年：ミャンマー被災地は今」（渋谷・笹塚区民会館、23日19時半～）★要申込

・難民を助ける会『ミャンマー・サイクロン発生から1年～現地スタッフが語る被災地の「今」』（東京ウィメンズプラザ、30日18時15分）★要申込

・いとうせいこう×沢知恵×ダブマスターX「ミャンマー軍事政権に抗議するポエトリー・リーディング QUIET」22日発売。インスタ・ライブ（タワーレコード渋谷店、5月2日17時）

・ロヒンギャ民族集団訴訟（難民不認定処分の取消など）原告本人尋問（東京地裁709号法廷、22日13時半～）

もっと詳しい情報は

きょうのビルマのニュース（平日毎日更新）
<http://d.hatena.ne.jp/burmainfo>

ビルマ情報ネットワーク
<http://www.burmainfo.org>

お問い合わせ
ビルマ情報ネットワーク 秋元由紀
yuki@burmainfo.org 080-2006-0165